

登別駅前広場の整備

■現状と課題

JR登別駅は、年間約400万人の観光客が訪れる登別温泉の玄関口となっておりますが、外国人観光客による駅利用者の増加、自転車、自家用車、バス・タクシーなどの交通が輻輳し、交通結節点としての機能が低下している状況にあります。

このような中、2020年度に、本地区に独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）登別病院の移転開院、さらには東京オリンピック・パラリンピックの開催、白老町における民族共生象徴空間（ウポポイ）の開設により、駅利用者の更なる増加が見込まれるところであります。

また、駅利用者の利便性向上に向け駅舎のバリアフリー化についてJR北海道と連携して取り組む方向で協議しているところです。

これらのことから、交通結節点である駅前広場の安全性・利便性を確保し、福祉に優しくにぎわいある駅前広場の整備が必要であります。

【登別駅前交通広場 3,400㎡ 昭和47年10月21日都市計画決定】

■要望内容

●交通結節点機能の向上を図り、登別温泉の玄関口としてふさわしい登別駅前広場の整備。



観光客とバス・タクシーで溢れかえる駅前広場



人と自動車が輻輳し機能低下している駅前広場



■事業効果

- 登別温泉等へのアクセスの向上
- 観光振興の強化
- 地域活性化
- 歩行者、自転車、自家用車、バス、タクシーなどの交通の安全確保と利便性の向上